# 議　事　録

| | | |
|---|---|---|
| 会　議　名 | 第４２回　宇都宮市環境審議会　議事録 | |
| 開 催 日 時 | 令和４年３月４日（金）　※新型コロナウイルス感染症の感染予防のため書類開催 | |
| 出席者 | 環境審議会<br>委　員 | 宇梶哲委員，金沢力委員，久保井永三委員，柴田賢司委員，<br>青木章彦委員（会長），横尾昇剛委員，桂木奈巳委員，加藤彰委員，<br>新井有明委員，近澤幸嗣郎委員，佐藤俊伸委員，篠崎務委員<br>大須賀勇貴委員，赤石澤亮委員（副会長），遠藤廣委員，木村由美子委員，<br>古澤勝司委員，横川剛委員，山内祥輝委員，岡元輝委員 |
| 公開･非公開 | 公開 | |
| 会議概要 | １　議事<br>・　カーボンニュートラルの実現に向けた基本方針について<br><br>⇒　議事について了承 | |

発言要旨　※意見書にて頂いた御意見を掲載しております。

【「カーボンニュートラルの実現に向けた基本方針」係る意見について】

| | |
|---|---|
| (御意見①)<br>委員 | ①　国の「脱炭素先行地域」の提案募集への応募をきっかけに，本市において，先行的に脱炭素化を推進するモデル地区を設定し，当地区における効果的な取組を市内全域に波及させることが有効な方策であると考える。そのことにより，私たち一人ひとりが行動を変え，市民・事業者・行政が一丸となって脱炭素化に取り組んでいくことが大切である。<br>②　クリーンパーク茂原の火災事故のピンチをチャンスに変えるため，燃えるごみ５割削減の協力を更に強く訴える必要がある。具体的には，家庭用生ごみ処理機の設置・普及を強力に推進することが大切である。そのためには，現在行っている補助率の拡充（9/10）をグリーンパーク茂原が復旧するまでの期間ではなく，大きく普及促進されるまで延長すべきである。 |
| 事務局 | ①　先行的に脱炭素化を推進するモデル地区の取組などを着実に推進することで，一人ひとりの意識改革・行動変容を促進し，市民・事業者・行政が一丸となって脱炭素化に取り組んでいく。<br>②　今般，クリーンパーク茂原の火災に伴い，燃えるごみの５割削減にご協力いただくため，「家庭用生ごみ処理機設置費補助制度」を拡充したところであり，引き続き，ごみ削減を促進する効果的な方策について検討していく。 |
| (御意見②)<br>委員 | ①　カーボンニュートラルを促進する際には，雑木林の減少等による生物多様性への影響等も含めて，環境を広い視野で捉え推進していってほしい。<br>②　「カーボンニュートラル」という言葉の認知度を上げることや，「地域資源を活かし，育みながらの社会経済システムの変革」をしていくことは，とても重要だと考えるので力をいれて進めていってほしい。 |

事務局

① 脱炭素に向けた取組を推進することは，生物多様性の保全に関連するところもあるので，広い視野で環境を捉えながらも脱炭素化に向けた取組を推進していく。
② 様々な媒体を活用し，周知活動に努め「カーボンニュートラル」という言葉やロードマップの認知度を高め，市民・事業者・行政が一丸となって脱炭素に取り組んでいく。

（御意見③）
委員

緩和だけでなく適応についても書き込んでほしい。

事務局

「カーボンニュートラルの必要性」等に，緩和策と適応策の考え方について記載する。

（御意見④）
委員

「2050 年カーボンニュートラル」を目指しているが，日本政府は 2030 年度の目標として温室効果ガスの 13 年度比 46%削減を目標としているので，この数値を短期的な目標数値として記載することが望ましい。また「温室効果ガス」とは何か，定義を説明することも必要かと思う。

事務局

「ロードマップ」では，本市における 2050 年カーボンニュートラルを見据えた 2030 年度温室効果ガス削減目標についても示していく。また，「温室効果ガス」の定義についても記載する。

（御意見⑤）
委員

ロードマップ全体構成案について
① 市民・事業者・行政が一丸となってということだが、市民の部分の記載が多く、事業者・行政の取組の記載が少ないように感じる。
② 「かえる、つくる、育てる」の考えかたについて、育てたものをさらに活用するという視点がないと、ただ育てるだけでは、いずれは行き詰ると思う。育てた後に、活用するという考え方を加えることにより、持続可能な循環が達成される取組になるのではないかと思う。 例 かえる・つくる・育て活用する

事務局

① 今後，カーボンニュートラルの実現に不可欠な市民，事業者，行政の取組を検討し，「市ロードマップ」に示していく。

② カーボンニュートラルを実現するためには，本市の資源を育て，さらに活用することが必要なことから，「育てる」の説明に，その旨記載する。

（御意見⑥）
委員

素晴らしい内容だと思う。特に，かえる，つくる，育てる，のアクション提示はわかりやすく良い。Ｋ（かえる）Ｔ（つくる）Ｓ（育てる）…Ｋ．Ｔ．Ｓアクションと称して認知活動を行うのも面白いのではないか。
① 温室効果ガス排出量表ではメタン，フロン等のガスが大きく増えている。まずは，その部分への改善提案がないのか。
② 温室効果ガス排出量の５０％を超える，産業，運輸，廃棄物等の削減幅が小さいのも気になる。４０％弱を占める民生部門については，更なる省エネ化の流れを加速出来るような政策を強化すべきである。
③ 市民へより分かりやすく，行動しやすく，やってみたくなるようなＰＲが必要であり，義務教育での子供たちへの周知にも力を入れて頂きたい。

事務局

① メタン・フロン等を含む「その他ガス」については，代替フロンの全国的な増加に伴い本市においても増加傾向となっており，今後，国が進めるフロン転換等の動向を注視し本市においてできる対策を検討していく。
② 基準年度比から削減幅が小さい「産業」「運輸」「廃棄物」部門については，エネルギー消費量減少を図る取組や，電動車や公共交通への乗り換え，ごみ減量化にむけた実効性のある取組等について検討していく。
③ 将来を担う子どもたちも含め，市民の方にわかりやすく，より認知してもらえるよう，様々な媒体を活用して周知していきたい。

| | |
|---|---|
| （御意見⑦）<br>委員 | 行動変容を促すための「大胆に！かえる」「もっと！つくる」「みんなで！育てる」というテーマ設定は，とてもわかりやすくてよいと思う。環境基本計画においても，市民・事業者・行政の環境配慮行動を促すガイドラインとして「環境配慮指針」が定められているが，今回はより一歩踏み込んだ具体的なアクション（行動）を提示するということで，その行動を起こすための支援策等についても検討し，ロードマップの中にいくつか明示されると，その本気度や意気込みが伝わり，取組が広がっていくと思う。 |
| 事務局 | 市民・事業者・行政における行動の提示とともに，行動や取組が広がるような支援策についても検討していく。 |
| （御意見⑧）<br>委員 | 「かえる」のゴミの減量化に向けて<br>現在は各家庭からでるゴミは，量に関係なく出している。これを，例えばゴミは有料の袋にして，各家庭において月３袋で年間３６袋にする。などの取組を行うと，ゴミをなるべく出さない様になるのではないか。 |
| 事務局 | ごみ減量化に向けて，家庭等からの排出削減を促進する方策について，検討していく。 |
| （御意見⑨）<br>委員 | 「NCC を基盤とした取組の推進」については賛成だが，現状，NCC 自体に対する市民の認知度がそれほど高くないように感じる。ついては，市民の理解，認知度が高まるように宇都宮市における具体的な取組状況を含めて，NCC に関する普及啓発の取組強化してほしい。 |
| 事務局 | NCC については，２月広報紙で特集記事を掲載するなど，周知を強化しているが，脱炭素化に向けた取組などとあわせた周知など，機会を捉えて普及啓発に努めていく。 |
| （御意見⑩）<br>委員 | 地域活動に市民が参加する理由を与えることが大切だと思う。学生としては<br>・仲良い人が参加すること<br>・景品などがもらえること<br>・そのイベントが楽しい、楽しそう　などの理由がなければ行かないため，新たなイベントとしてゴミ分別クイズを使った脱出ゲームを提案する。クイズはゴミの分別方法、出し方など。間違えた場所には解説を置くもしくは、音声で流す。そして、その解説の場所にキーワードを置き、終わった後に謎解きをして景品プレゼント。間違えてもメリットがあるようにし，全問正解したグループにも別の景品を用意する。そうすることで学生のデートスポットにもなりつつ、ごみの分別についても学ぶことができる。 |
| 事務局 | ご意見頂いたような，様々な年代の方が，楽しく参加し環境活動について考えることができる場の創出についても検討していく。 |
| （御意見⑪）<br>委員 | ３つのアクションの一つ「もっと！つくる」は，地域ポテンシャルの活用のイメージと若干乖離しているように感じてしまう。実際にはハード面等「つくる」ことは不可欠だが，未利用エネルギーなどの活用は，“在るものを使う”というイメージに近いと認識しているので，誤解を招きやすい表現であるように感じる。 |
| 事務局 | ご意見のとおり，地域ポテンシャルの活用等は「既に在るものを活用する」ということではあるが，カーボンニュートラルに向けては，再生可能エネルギーが不足している状況にあり，“太陽光発電設備を設置して再エネをつくろう”等の市民一人ひとりが取り組む行動に視点を置いての表現としており，再エネをつくることは，年間を通して日照量が豊富な宇都宮のポテンシャルを活用することであることも含めて周知していきたい。 |